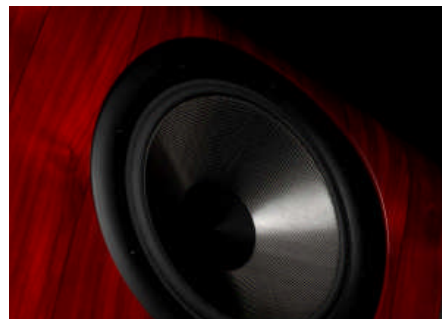


“The Sonus faber” 製品資料



連綿と重ねてきたSonus faber(ソナス・ファベール) の歴史。その着実な歩みの中で、初めて自らの名を冠するスピーカーを作りました。

その名は「The Sonus faber(ザ・ソナス・ファベール)」

「The Sonus faber」は30年に及ぶソナス・ファベールの歴史の中で、初めて自らの名を冠して発表したスピーカーです。

キャビネット構造

「The Sonus faber」は天然木積層材を中心に構成されています。外皮に相当する部分は感性状態の積層板ではなく、複数枚の薄板を大型プレス機でスピーカー自体の外形形状になるように加工しながら、言うなればキャビネットの素材自体を創り上げる段階から自社生産しています。音楽を再生するスピーカーのキャビネット形状として、「The Sonus faber」のような大型スピーカーでソナスファベールが最適であると考えているリュートの外観を実現するためには、このような手法が欠かせないからです。

キャビネット内部はウーファー部とツイーター・スコーカー部に明確に分離した2気室構造です。単純な1気室構成ではウーファーの背圧によるスコーカー・ツイーターへの悪影響が避けられないのと、側板に十分な強度を持たせるためには必要以上に厚みのある木材を使用しなければならないからです。2気室構造にすることで、「The Sonus faber」は1700mmを越す大型スピーカーでありながら、現実的な重量にまとめました。



キャビネット表面はレザー張りとしています。高級感漂う外観となるだけでなく、キャビネット表面の音の乱反射を整える役割も果たしており、ソナスファベールならではの音世界を形成する重要なパーツの一つです。ユニットとバッフル板間の密閉度を高めるガスケットとしての役目も果たしています。



“The Sonus faber” 製品資料

バイオリン属楽器の“Anima legate”に相当する部材をキャビネットの上下を貫通するかたちで取り付けられています。“Anima legate”とは“魂柱(こんちゅう)”に薙とする部材で、不要振動を抑えキャビネット全体の剛性の向上に寄与しています。



天板・底板は分厚いアルミブロックをCNC(コンピュータ数値制御)加工機により削り出して加工しています。底板に取り付けた脚には適度なコンプライアンスを持たせてあり、床からの不要振動をシャットアウトします。



スピーカーユニット

「The Sonus faber」は4ウェイ+2ウェイ、7スピーカー構成です。

フロント・ツイーター

25mmソフト・ドーム・ツイーターを採用しています。振動板はシルク、マグネットはネオジミウムとサマリウム・コバルトからなる複合構成です。

フロント・スコーカー

165mmコーン型スコーカーを採用しています。振動板は木材パルプ、パピルスなどの植物系素材を採用、マグネットはネオジミウム。

フロント・ウーファー

250mmコーン型ウーファーを2個使用しています。振動板は極めて微少な中空状粒子を樹脂で固めたシンタティックフォームの両面をセルロースパルプで挟んだサンドウィッチ構造。ボイスコイル直径は3インチ(約76mm)。

スーパー・ウーファー

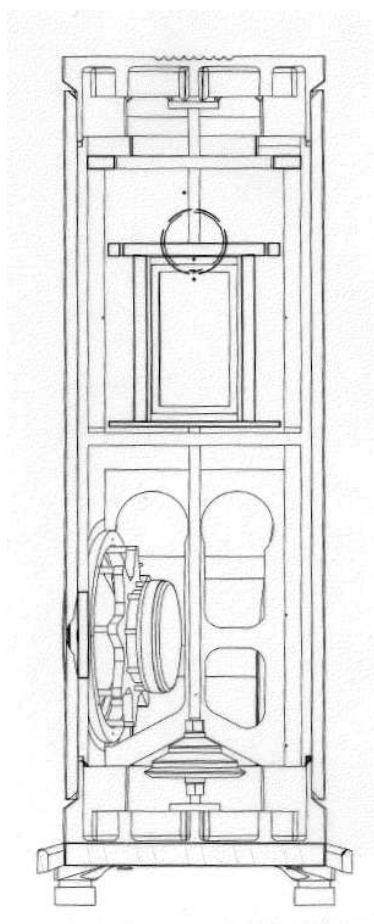
380mmコーン型ウーファーをキャビネット側面に1個使用しています。振動板はフロント・ウーファー同様のシンタティックフォームの両面をナノカーボンで挟んだサンドウィッチ構造。ボイスコイル直径は4インチ(約102mm)。

リア・ツイーターとリア・ウーファー

ツイーターは25mmソフト・ドーム型、ウーファーは110mmコーン型。この2つのユニットは名機「MINIMA」に使用していたユニットの改良型です。このリア・ツイーターとリア・ウーファーからなるシステムは音像感、音場感の向上に大きく改善しております。

“The Sonus faber” 製品資料

インピーダンス	4Ω	
重量	305kg	
外形寸法	幅	525mm(キャビネットのみ)
		747mm(脚部含む)
	高さ	1588mm(キャビネットのみ)
		1713mm(脚部含む)
	奥行	782mm(キャビネットのみ)
		751mm(脚部のみ)



株式会社ノア 東京都新宿区早稲田町70-8 www.noahcorporation.com